



布施だより

謹賀新年

《2014 年から 2015 年へ～終業式・始業式～》

2014 年から 2015 年の年が明けました。今年もよろしくお願いたします。年末から年始にかけての様子をお伝えします。

〈 終業式 〉

12 月 26 日 (金) の 3 学期終業式では、生徒代表の 3 人の皆さんから 2 学期を振り返っての発表がありました。

「2 学期は銀河祭や音楽会など様々な行事がありました。銀河祭では、スタンプラリーや生徒会が主催する演劇など小学校とはまた違う内容でした。音楽会では学年だけではなく、クラスごと合唱するという内容にとても緊張しましたし、小学校と違って面白かったです。3 学期も充実した学期になるように頑張りたいです。」

(1 年 3 組 北原康輝さん) ~ ~ ~ ~ ~

「3 学期の登校日数は少ないですが、3 年生への準備と修学旅行の準備があります。その中で、球技大会と音楽会で得たことを生かしていきたいです。3 学期の生活も今までのように学習や給食、清掃など 1 日の生活が繰り返されます。同じことの繰り返しだけど、その時その時の気持ちを大事にして生活することで、見えない力が身につくことがあると思います。私はルーム長にもなったので、このことを目標に実践しながら、クラスをまとめて頑張っていきたいです。」

(2 年 2 組 丸野芽衣さん) ~ ~ ~ ~ ~

「一番長い 2 学期はたくさんの行事がありました。9 月には最後の銀河祭。学年合唱はひとりひとりがしっかり歌っていて、今までにないくらいの合唱でした。10 月には球技大会。どのクラスも一致団結して頑張っていました。2 学期は楽しかったことがたくさんありました。今は受検に向けて姿勢をつくっているところです。明日からの冬休みにたくさん勉強をして、後悔しない生活を送りたいです。」

(3 年 7 組 宮澤里菜さん) ~ ~ ~ ~ ~

校長講話では 11 月 22 日の長野神城断層地震で被災した鬼無里中学校の生徒諸君の様子を紹介しながらの一年の締めくくりでした。



鬼無里中では門柱が倒壊。校舎にひび割れ。グラウンドに地割れ。図書館の本棚が倒れる。棚等から物が落ち、校舎内のいたるところで物が散乱しました。大きな被害を受けた鬼無里中ですが、あの地震以来、校舎の安全性が確認できないため、生徒も先生も校舎に入れない状態が未だに続いています。鬼無里中の生徒は、鬼無里小学校の空き教室を借りて勉強をしています。

理科の実験をしようとしてもガスバーナーがない、技術科の製作をしようとしてもその設備がない、体育館も小学生と一緒に使っている。こうした大変不便な中で、学校生活を過ごしてきました。12月の初めに、鬼無里中では、全校で学校の様子を見に行ったそうです。もちろん校舎の中には入れませんでした。そのときの気持ちを鬼無里中の3年生が生活記録に書いてきました。

～昨日の4時間目に全校で中学校の様子を見に行きました。私は地震があってから初めて中学校に行きましたが、校門の石が倒れていたり、グラウンドや校舎にひびがたくさんあり、私の考えていた以上で、とても悲しい気持ちになりました。私たちが3年間過ごしてきた学校がこんなことになってしまい、とても残念です。卒業式は、あの体育館で行えないのでしょうか。1日も早く直ってほしいです。～

～昨日は久しぶりに中学校に行きました。玄関のところからひびが入っていたりして、ショックでした。特に、体育館の裏の壁がすごかったです。学校にはまだ帰れないようです。卒業式は中学校でやりたいです。今はまだ帰れませんが、みんなで頑張っていきたいです。～

鬼無里中学校は、最近になってようやく校舎の安全性が確認でき、3学期からまた中学校に戻って学校生活が送れるそうです。しかし、体育館と校庭は、3学期以降も、当分の間使えないそうです。3年生の「自分の学校の体育館で卒業式をする」という願いはかないそうもありません。

1ヶ月以上にもわたり、不便で整わない環境の中で、しかも、いつ学校に戻れるかわからない不安を抱えながら、それでも、前を向いてみんなで頑張っていた中学生が、同じ長野市にいたということにせひ心に留めておいてほしいと思います。

また、「学校がある」というそんな当たり前ことにもあらためて感謝したいと思います。そして、当たりの事に感謝しながら、1日、1日を本当に大切にしてお過ごしをかなければならないと思います。

～ ～ 《 春待つ息吹き 》 ～ ～

休み中に、男子バスケットボール部諸君が県大会で大活躍をしてくれています。

〈男子バスケットボール部〉 【第45回県新人選手権大会】 12/28(日) 於：小諸市総体



対白田中○62-54 対春富中●30-46

決勝トーナメントへ 対聖南中と1/10(土) 於：御代田中

〈 始業式 〉

明けて1月8日(木)の始業式では、生徒代表の皆さんから3学期への決意発表が次のようがありました。

「中学生になって時間に余裕を持つことがなかなかできません。時間に余裕が持てない原因は、「途中であきらめてしまう」ことと同じで、別の何かに気をとられて時間がなくなってしまうからです。時間に余裕が持てるように、まず「今は何をやらなければいけないのか」を常に考えるようにしたいです。春になれば私たち1年生は初めて先輩という立場に立ちます。ですので身の周りの気配りがどんな時でもできるよう



になって、誰からも尊敬されるようになりたいです。」

(1年4組 家田桃花 さん) ~ ~ ~ ~ ~

「生徒会も私たち第50代への引き継ぎが終わりました。ここまで先輩方が築き上げてくださった伝統を受け継ぎ、さらに素晴らしい西中にするために今は不安でいっぱいですが、創立50周年の記念すべき年に、まずは学年全体がひとつにまとまり、そして全校を引っ張っていけるようにしたいと思います。3学期は49日間です。一日一日を大切にしてお充実した生活を送りたいと思います。」

(2年4組 風間愛梨 さん) ~ ~ ~ ~ ~



「自分の精一杯の力で受検をしたいです。そのためにこれからの日々の生活が大事だと思います。それは当たり前のことを当たり前にする凡事徹底です。毎朝同じ時間に起きること、朝食をきちんと食べること。そして学級での約束事、授業に遅れないこと、残食0にすること、など当たり前にすることが精一杯の受検につながります。そして、この3学年の仲間と別れてしまうのはとてもせつないことですが仕方ありません。残り少ない中学校生活を大切に、卒業の日には笑顔でこの篠ノ井西中学校を卒業したいです。」

(3年1組 横山貴之 さん) ~ ~ ~ ~ ~



校長講話では「感謝」についてお話がありました。少し長くなりますが、生徒諸君の「縁の下の頑張り」に対する、そして「ささやかだけれども精一杯の頑張り」に対する校長先生からの、みんなひとりひとりへの「感謝」のメッセージです。お読みください。

今年度の銀河祭は、全校で創り上げた、本当にすばらしい銀河祭でした。それぞれの持ち場で精一杯を尽くし、閉祭式の時には全校みんな達成感や成就感を味わえたような気がします。こうしたすばらしい銀河祭でしたが、私たちの知らないところで、見えないところで、自分の役割を誠実に果たし、縁の下の力持ちとして、銀河祭を支えてくれた人たちがたくさんいました。

例えば、銀河祭の前日準備で、体育館の生徒席、保護者席を担当した役員の人があります。全校の皆さんの椅子の搬入が終わった後、その人が中心となって、生徒椅子の間隔をティッシュボックス1個分と決めて、ティッシュボックスを物差し代わりにして、1cmの狂いもないほど、全校分の椅子を見事に並べてくれました。どこに座っても、同じように、平等に、左右に余裕のある座席は、こうして作られていました。2日間、全校の皆さんが座る椅子です。皆さんがゆとりを持って座れたのは、こうした仲間がいたからです。

また、こんな仲間もいました。学級展示等で使う展示幕は全校で80枚以上もの枚数を使いました。その展示幕の片付けを、本当に誠実に丁寧に行ってくれた仲間がいます。展示幕は購買の中にある棚にしまうのですが、展示幕にはいろいろな大きさのものがああります。しまう棚の幅が決まっているので、展示幕の大きさに応じて、たたみ方や入れ方を工夫しないと棚には収まりません。なかなかやっかいな仕事です。この仕事を自ら進んで行き、すべての展示幕を整然と棚にしまってくれた人たちがいました。展示幕は今、きれいに棚に収まっています。枚数も正確にわかっています。きっと



来年の銀河祭で展示幕を使うときに、困ることは何もないと思います。

椅子を並べるという仕事も、展示幕をしまうという仕事も、本当に地味で目立たない仕事です。誰にも気づかれないこともある仕事です。それでも、自分の仕事に意味を見いだし、こんなにも誠実に取り組んでくれたことに、私は頭が下がる思いになります。

「一隅を照らす (いちぐうをてらす)」という言葉があります。この言葉の意味は「自分が置かれた立場や役割に対して、誠実に精一杯を尽くし、人のために尽くすこと」という意味です。一隅という言葉自体の意味は「片すみ」とか「一方のすみ」という意味ですが、ここでは、自分が置かれた立場や役割をさしています。「一隅を照らす」とは、どんな立場や役割であっても、そこで精一杯を尽くし、その場を照らす存在になることです。

椅子を並べてくれた仲間も、展示幕を整然と片付けてくれた仲間も、まさに、一隅を照らしてくれました。私たちの日々の生活は、こうした一隅を照らしてくれる存在があってこそ明るく光り輝くものになります。

2学期末に、3年生のこんな生活記録がありました。

～今日はトイレ掃除にAさんが来ていました。バケツの水を捨てるところの掃除をしてくれました。

Aさんが、すごく時間をかけて一生懸命やっているのを見て、私も今日は雑巾がけをすみずみまで力をいれてやろうと思って、いつもは気がつかないところの汚れも何度も雑巾をかけました。すごく腕が痛くなったけど、自分の心まできれいになっていくような感じがしたし、15分じゃ足りないくらいでした。～

このAさんも、そしてその様子を生活記録に書いてくれた人も一隅を照らす存在です。Aさんの放つ光は、この生活記録を書いた人を明るく照らし、生活記録を書いた人自身も光を放っています。3学期はこうした一隅を照らす光で学校中が光り輝く学校に、皆さんと一緒にしていきたいと思えます。どんなささいなことでも、自分の目の前にある、自分の役割や立場で、精一杯を尽くすこと、このことを大切にしてください。こうしたことが、必ず「感謝の3学期」につながります。

3月19日、49回目の「さよなら」は、学校中が一隅を照らす「光と感謝の気持ちに満ちあふれた」そんな「さよなら」に、みんなですていいきましょう。

・・・篠ノ井西中学校の3学期49日間はスタートしました。

～ ～ ～ 県教育委員会「こどもの権利支援センター」より「子ども専用無料相談電話の設置」についてのお知らせが以下のようにきています。ご活用ください。～ ～ ～

こどもの権利支援センターからのお知らせ

「こどもの権利支援センター」では、新学期での生活の中で生じる、子どもの悩み等を聞かせていただくために、児童生徒専用の無料相談電話（フリーアクセス）を設置します。

子どもの悩みを、県教育委員会の担当指導主事が丁寧にお聞きし、問題の解決に向けて責任をもって対応します。

子ども専用無料相談電話 設置期間

平成27年1月13日(火)～1月23日(金) 8:30～18:00

*土日を含む

子ども専用電話番号



(0800-800-3390)

保護者用電話番号

(235-7458) *平日のみ

FAX 番号

(235-7495)